

読売新聞 きょう（8月10日）のイチ押し

一面など きょう内閣改造

岸田首相（自民党総裁）は10日に行う内閣改造・党役員人事の顔ぶれを固めました。全19閣僚中14ポストを入れ替える一方で、閣僚経験者を多く登用する考えです。防衛相は浜田靖一氏、厚生労働相は加藤勝信氏と、いずれも経験者を再登板させます。

- ★その他の閣僚経験者では、高市早苗・元総務相を経済安全保障相に、河野太郎・元外相をデジタル相に、西村康稔・前経済再生相を経済産業相に充てることが固まりました。初入閣組では、寺田稔首相補佐官を総務相、永岡桂子・元文部科学副大臣を文科相、西村明宏・元官房副長官を環境相、谷公一・元復興副大臣を国家公安委員長に起用する考えです。
- ★党役員は各派閥から重量級を充てます。麻生太郎副総裁と茂木敏充幹事長を続投させ、政調会長に萩生田光一経済産業相、選挙対策委員長に森山裕総務会長代行、総務会長に遠藤利明選対委員長を起用します。

一面など 正倉院展 10月29日～11月14日

奈良国立博物館（奈良市）は9日、「第74回正倉院展」の概要を発表しました。鳳凰や唐草などの文様で背面を装飾した「漆背金銀平脱八角鏡」など、天平文化の華やかさと高度な技を伝える宝物を中心に、59件（初出展8件）が公開されます。読売新聞社は今回も特別協力します。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展覧会は一昨年、昨年に続き事前予約が必要な日時指定入場制を導入し、当日券の販売はありません。

他紙と比べて

終戦から77年となる今年、ロシアがウクライナに攻め入りました。惨禍が繰り返される今、識者と「あの戦争」を見つめ直す連載「『侵攻』の後で」がスタートしました。初回に登場したのは、世界史にも詳しい立命館アジア太平洋大学長の出口治明さん。かつて日本は国際社会で孤立した末に太平洋戦争へと進んだ、と説きます。さらに、「将来、世界で何が起こるか誰にもわからない。それに備える教材は歴史に求めるしかない。今戦われている戦争はもちろん、過去の戦争についても知ろうとする努力を怠ってはいけない」と力説しています。